

# 平成29年度 事業報告書

大慈幼保連携型認定こども園

## 1. 《ヴィジョン》

- ①本園と、とも分園の密な連携
- ②地域住民と共に歩む園を目指す
- ③一人一人を大切にする保育の継承
- ④保育者の人間力・保育力の向上
- ⑤人材確保と定着の強化
- ⑥地域の子育て家庭への支援

## 2. 《基本方針》

- ①子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める

## 3. 《中長期目標》

- ①とも分園は、住民と共に歩む
- ②保育要領を理解し、教育保育を深める
- ③キャリアパスを基に研修の充実を図る
- ④求人活動を積極的に行う。
- ⑤法人内幼保連携型認定こども園と連携を図り独自性を出す
- ⑥地域の子育て家庭への支援を行う

## 4. 《平成29年度計画》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める  
→子どもが自ら活動できるよう、検討を重ねた。
- ②本園と分園の連携を密に図り、豊かな教育保育が行えるようにする  
→職員間の連携を密に図り、一緒に教育保育が行えるよう努めた。
- ③特色・サービスの視覚化を進める
  - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者と職員との交流を深めた。
  - ・ホームページ(PC・スマートフォン)の更新を行った。
  - ・地域の施設・学校・関係者に園だよりなどを配布し、園を知っていただくよう努めた。
  - ・湊川神社への避難訓練時、腕章をつけて、地域の方にも知っていただいた。
  - ・園庭開放、子育て広場にも遊びに来ていただいた。
  - ・園庭開放ポスターを病院等に掲示していただいた。
- ④キャリアパスを基に職場内、職場外研修を行い、全職員で共通理解をする  
→研修報告を行い、共通理解し園全体で取り組むことができた。  
職員の資質向上のため、職員会議毎に研修・伝達講習を行った。  
11月23日、4園合同で、「子どもへの対応」について研修を行った。
- ⑤幼保連携型認定こども園に移行し、保護者の方が戸惑ったり、不安にならないよう、信頼関係を保つ努力をする  
→日頃からコミュニケーションをよく図り、手紙でお知らせしたり、保育料直接徴収など、質問に丁寧にお答えした。

⑥法人内幼保連携型認定こども園・保育園の合同会議を行い、お互いに刺激し合い、進める  
→月1回園長・責任者会議を行い、全園の状況把握をした。

5. 《行事計画》

年間行事

月	行事名
4月	入園式
5月	春の遠足（5歳児）
6月	お楽しみ会 歯科教育指導
7月	全園児プール開き 七夕祭り ワークキャンプ受け入れ
8月	地藏盆
9月	お泊り保育（5歳児） 遠足
10月	運動会 お泊り保育(5歳児) 秋の遠足（全園児）
11月	作品展 参観ウィーク お楽しみ会 津波避難訓練
12月	音楽会 クリスマス会
1月	おもちつき よいこの集い 六甲山スキー遠足（5歳児） お楽しみ会
2月	生活発表会 ピドスコープ撮影
3月	お別れ遠足(全園児) お別れ会 卒園式 津波避難訓練

月間行事（月1回）

お誕生日会 子育て支援事業 防災訓練 防犯訓練

その他

- ・盲学校幼稚園部児童との交流 週1回
- ・事故対応訓練（SIDS・プール事故・アレルギー対応）
- ・消火器 火災報知器の点検 年2回
- ・消防署による消防訓練 年1回
- ・警察署による交通安全教室・防犯訓練 年1回
- ・消防署への避難訓練報告 年1回

6. 《保健衛生計画》

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児4・5月、11月 年2回 職員年1回
園児歯科健診	5月・11月 年2回
園児耳鼻科健診	5月 年1回
園児眼科健診	5月・2月 年2回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
調理員・保育教諭全員検便	(株)アリケンにより月1回以上
調理室の消毒	サニックスにより月1回
グリストラップの清掃	乾商事により年4回
エアコン・換気扇の清掃	乾商事により年1回

7. 《平成29年度在籍児一覧表》（ ）は分園

2・3号認定こども

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	9 (8)	25 (8)	25 (9)	26 (9)	24 (9)	26 (6)	135 (49)	115%
5月	9 (8)	25 (8)	24 (9)	26 (9)	24 (9)	26 (6)	134 (49)	114%
6月	9 (8)	25 (8)	24 (9)	26 (9)	24 (9)	26 (6)	134 (49)	114%
7月	9 (8)	25 (8)	24 (9)	26 (9)	24 (9)	26 (6)	134 (48)	114%
8月	9 (8)	25 (8)	24 (9)	26 (9)	24 (8)	26 (6)	133 (48)	114%
9月	9 (8)	25 (8)	24 (9)	26 (9)	24 (8)	26 (6)	133 (49)	114%
10月	9 (8)	25 (8)	24 (9)	26 (9)	24 (9)	26 (6)	134 (49)	114%
11月	9 (8)	25 (8)	24 (9)	26 (9)	24 (9)	26 (6)	134 (49)	114%
12月	9 (8)	25 (8)	24 (9)	26 (9)	24 (9)	26 (6)	134 (49)	114%
1月	9 (8)	25 (8)	24 (9)	26 (9)	24 (9)	26 (6)	134 (49)	114%
2月	9 (8)	25 (8)	24 (9)	26 (9)	24 (9)	26 (6)	134 (49)	114%
3月	9 (8)	25 (8)	24 (9)	26 (9)	24 (9)	26 (6)	134 (49)	114%
合計	108 (96)	30 (96)	289 (108)	312 (108)	288 (108)	312 (72)	1607(586)	114%

1号認定こども

	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	5	5	4	14	90%
5月	5	5	4	14	90%
6月	5	5	4	14	90%
7月	5	5	4	14	90%
8月	5	5	4	14	90%
9月	5	5	4	14	90%
10月	5	5	4	14	90%
11月	5	5	4	14	90%
12月	5	5	4	14	90%
1月	5	5	4	14	90%
2月	5	5	4	14	90%
3月	5	5	4	14	90%
合計	60	60	48	168	90%

8. 《リスクマネジメント報告》 本園

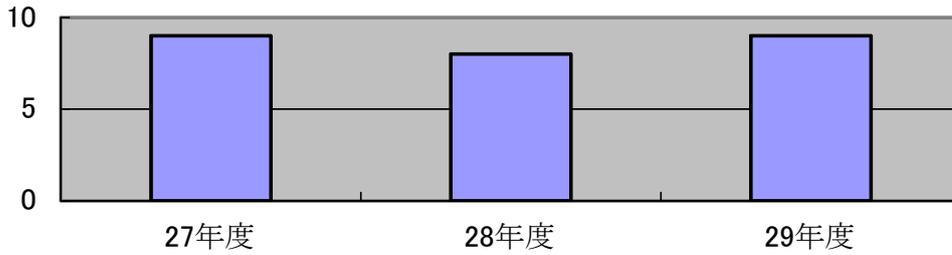
※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

報告件数	平成29年				報告件数	平成28年度			
	合計件数	事故	ドキドキ	処置		合計件数	事故	ドキドキ	処置
	1,596件	9件	1,445件	142件		1,500件	8件	1,341件	151件

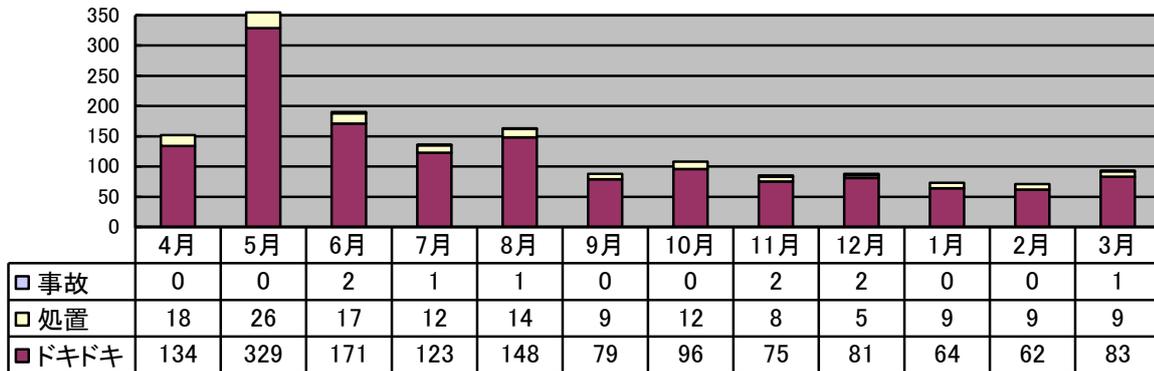
27年度 861件 (事故 9件、ドキドキ 692件)

26年度 853件 (事故 8件、ドキドキ 659件)

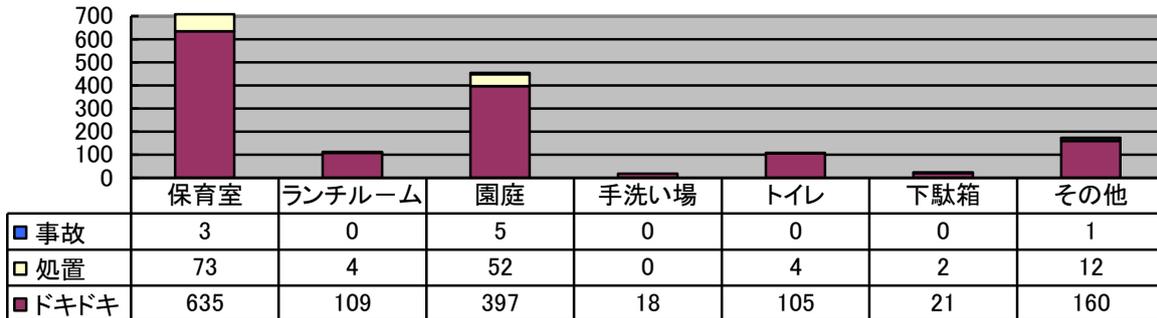
年度別事故件数



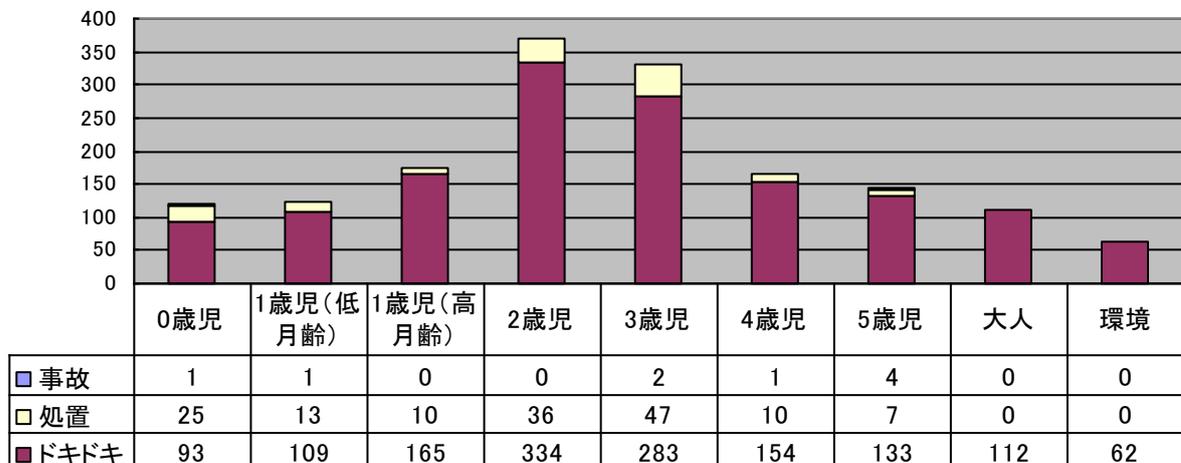
①月別発生件数



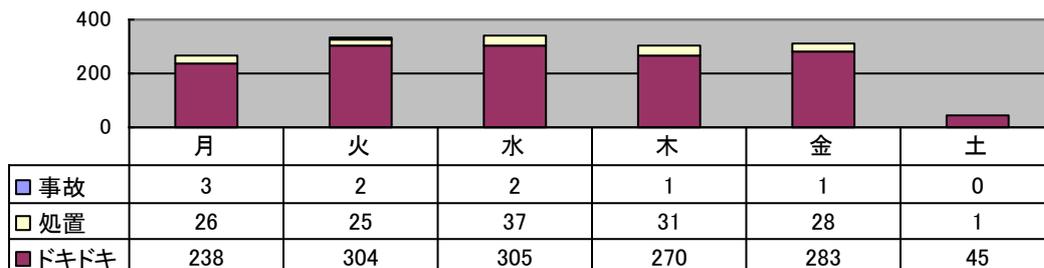
②場所別発生件数



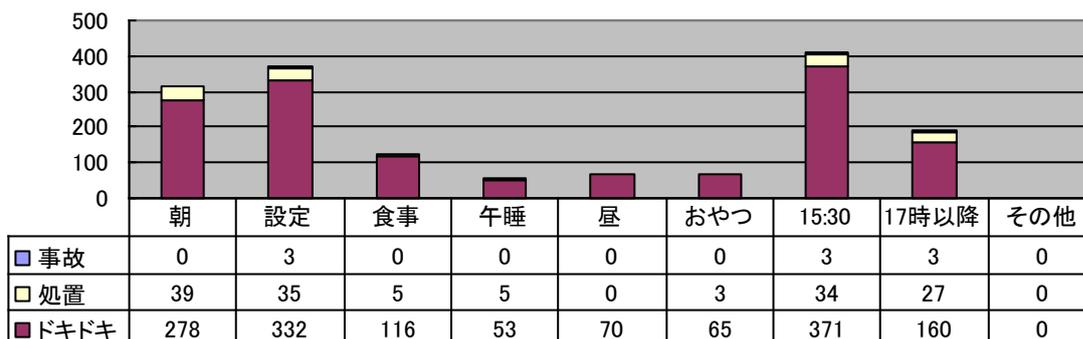
③クラス別発生件数



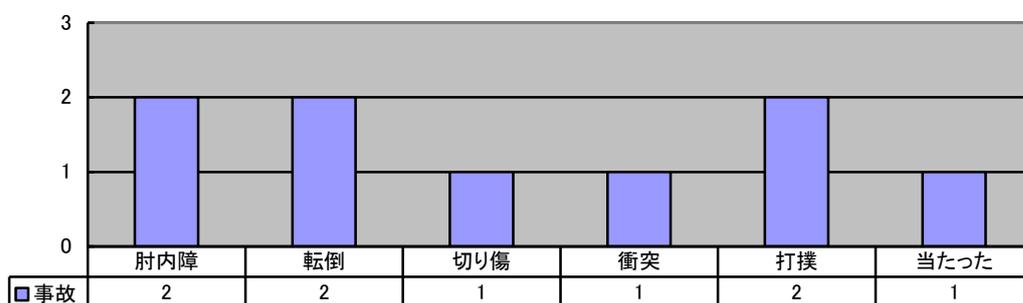
④曜日別発生件数



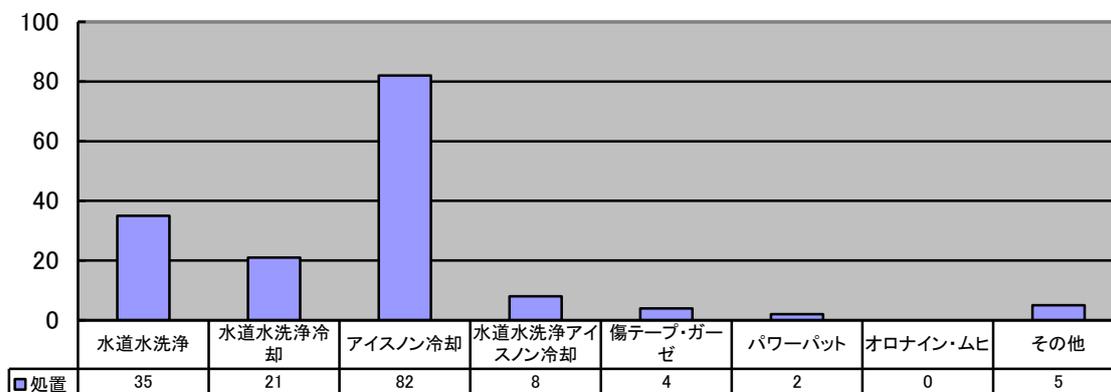
⑤時間帯別発生件数



⑥事故発生内容



⑦処置内容



⑧まとめ

乳児の噛みつき、設定保育の時間帯、保育室など同じケースのドキドキが多く出ている。幼児は友だちとの関わりで揉めることや階段での上り下りでのドキドキが多い。

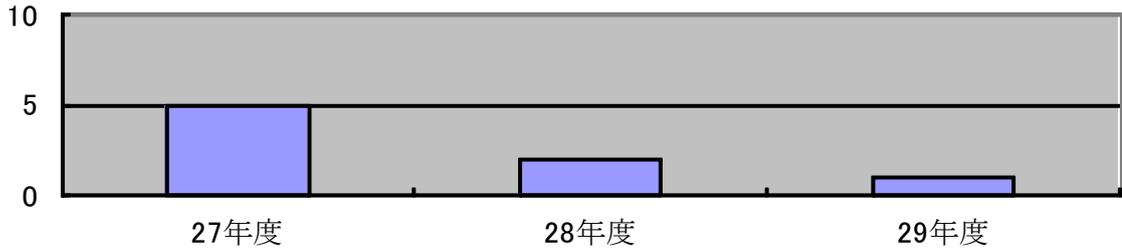
《リスクマネジメント報告》 分園

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

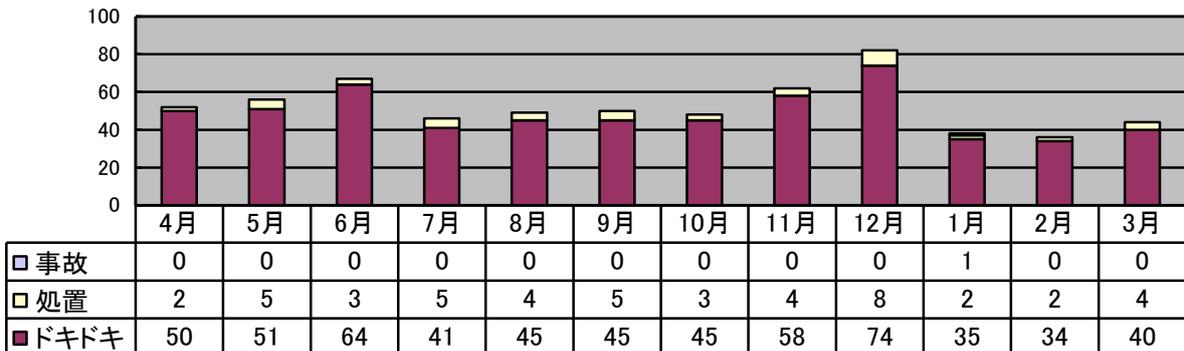
平成29年					平成28年度				
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	処置	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	処置
	622件	1件	584件	47件		616件	2件	584件	30件

27年度 632件 (事故 5件、ドキドキ 627件)

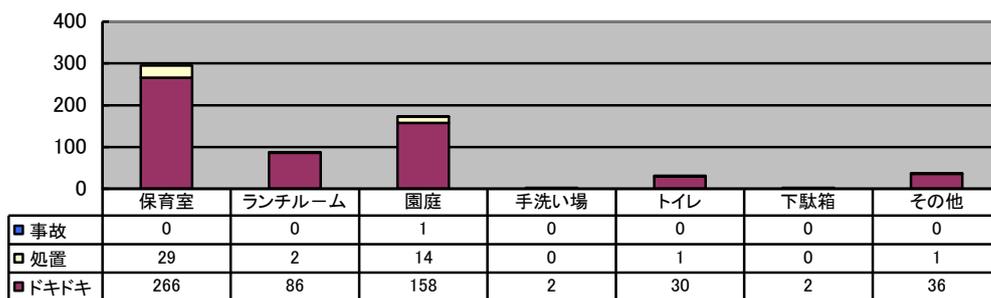
年度別事故件数



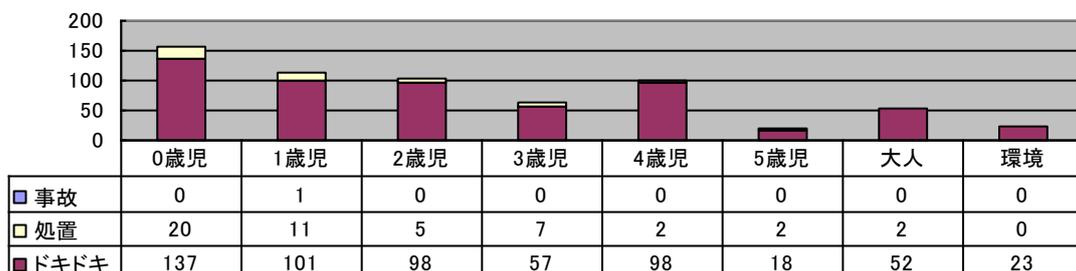
①月別発生件数



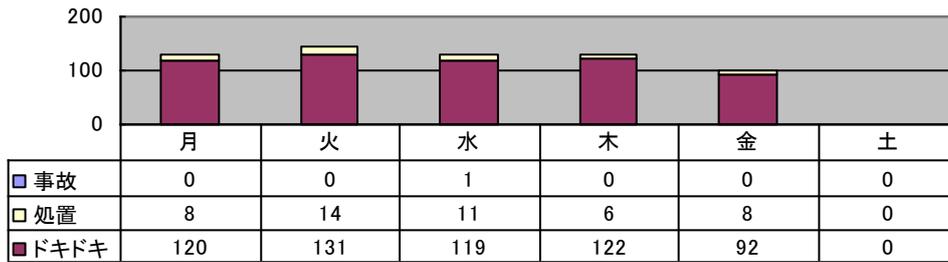
②場所別発生件数



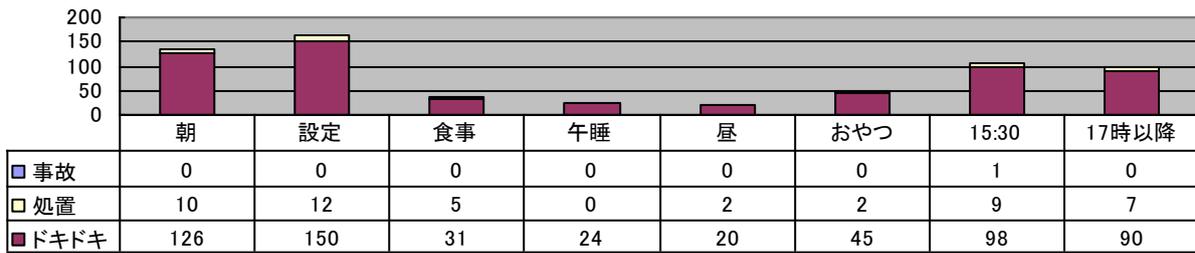
③クラス別発生件数



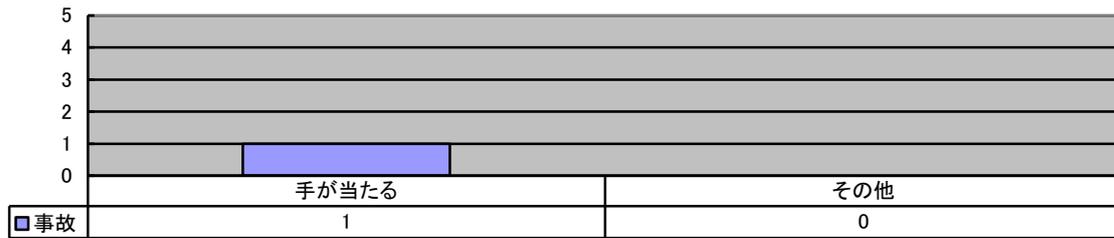
④曜日別発生件数（土曜日は本園で保育）



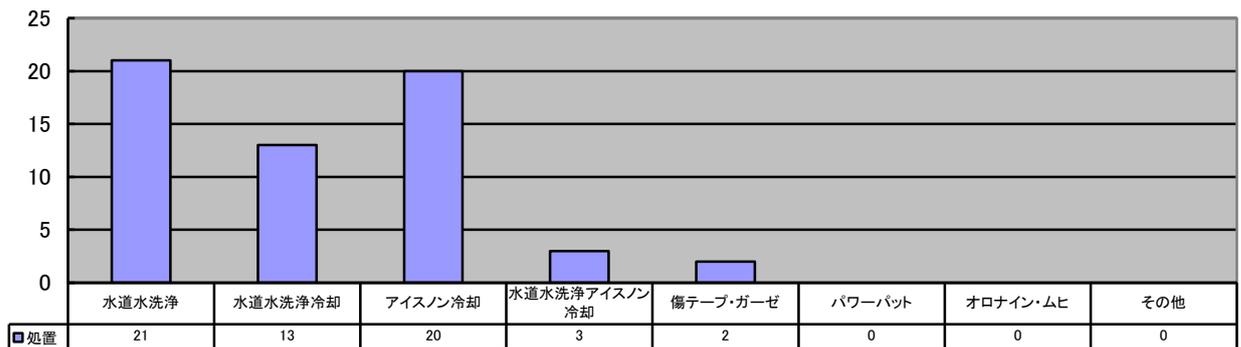
⑤時間帯別発生件数



⑥事故発生内容



⑦処置内容



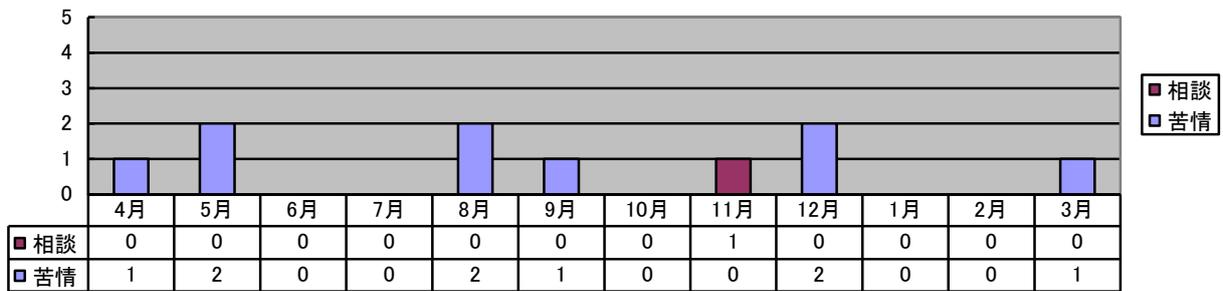
⑧まとめ

乳児の噛みつき、設定保育の時間帯、保育室など同じケースのドキドキが多く出ている。幼児は友だちとの関わりで揉めることが多い。

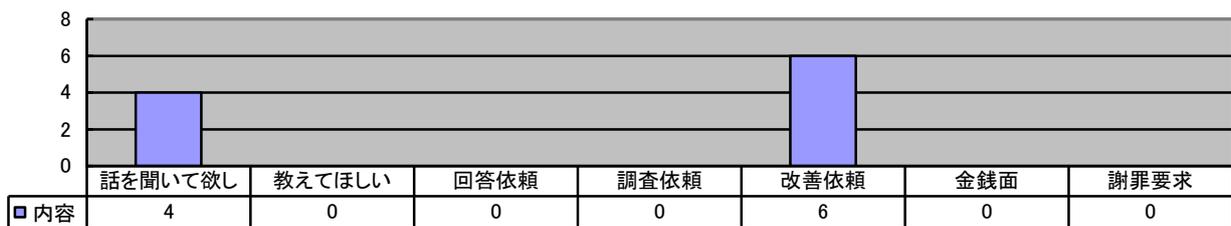
9. << 苦情・相談結果報告 >>

苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

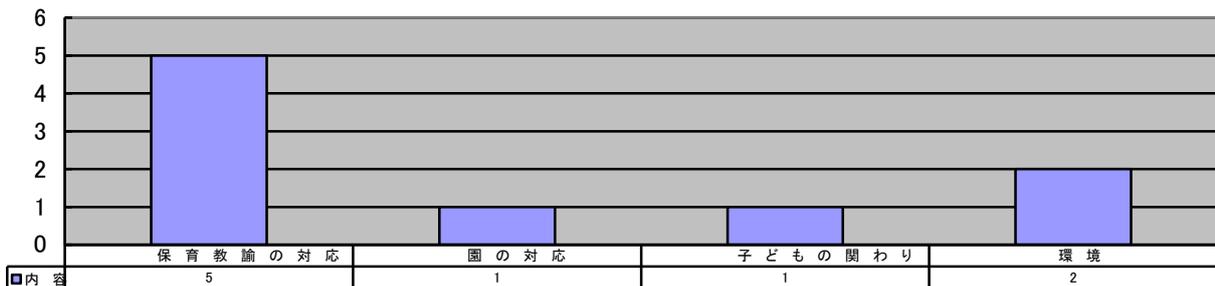
○報告件数・・・9件（本園6件 分園3件）



要望分類



主な内容



## ○まとめ

保育教諭の配慮不足や精神疾患の保護者への対応の難しさを感じた。  
 車通園の保護者が増加し、地域に迷惑がかからないよう配慮していきたい。

## 10. <総括>

今年度は、育児休暇中の保護者が多かった。しかし、家庭で子どもと一緒にいることが難しい保護者が多くいた。子どもの体調が悪くても園にあずけようとする姿がよく見受けられた。また、親が子どもをなだめたり、叱ったりできず、子どもの言いなりになってしまっている保護者が多い。家庭の子育て機能が低下してきていることを実感した。今後、今まで以上に子育て家庭への支援、親育てを意識し、情報発信をしながら、育児の主体が保護者であること・園と共に育てることを伝えていきたい。また、昨年度同様、保護者の就労状況がハードになっている。両親共に正規職員の家庭が多い。その上、祖父母が近隣に居住しておらず、夫婦だけで子育てをしている家庭も多い。それらに伴って、0歳児1歳児の保育時間が長くなっている。遠方勤務も増えてきているので、長時間保育（延長保育）は重要だと考えている。夕方以降安心して過ごせるよう、一層丁寧に保育をしていきたい。

ここ数年で地域事情が激変し、子どもや両親にとって過酷な毎日を過ごしている家庭が多くなっている。園の役割を果たすよう努め、子育て家庭への支援を行っていきたい。